



地域医療通信

⑨

西脇市多可郡医師会 地域医療検討会 平成 21 年 10 月発

勤務医の健康を守る病院7カ条

勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会

勤務医の健康支援に関する委員会では、2009年2月に病院に勤務する医師会員1万人を無作為に抽出し、勤務医の健康に関するアンケート調査*を実施しました。私たちはこの結果から、次のような「勤務医の健康を守る病院7カ条」を提案させていただきます。また、別に、「医職が元気に働くための7カ条」も提案させていただいております。

病院での組織的な改善は、医師のためにも、そして患者のためにも必要です。
なお、日本医師会でも、勤務医の医師賠償責任保険の充実化や女性医師/リンクを創設して参りました。また、今後勤務医の労働環境の整備のため、医師不足・偏在の是正等を図るための対策の確保や医師確保対策等を行って働きかけ続けていきます。

勤務医の健康を守る病院7カ条

- その1 医師の休息が、医師のためにも患者のためにも大事と考える病院
必要な睡眠時間や少なくとも週1回の休日がとれる体制が必要です。
- その2 挨拶や「ありがとう」などと笑顔で声をかけあえる病院
挨拶から始まる良好な人間関係こそが職場の財産です。
- その3 暴力や不当なクレームを予防したり、組織として対応する病院
事例の多くは組織的対策により予防や早期解決が可能です。
- その4 医療過誤に組織として対応する病院
医師個人の責任ではなく、組織としての対応が医師・患者に必要です。
- その5 診療に専念できるように配慮してくれる病院
業務の効率化・補助者の導入などで負担が減ると、診療の効率もあがります。
- その6 子育て・介護をしながらの仕事を応援してくれる病院
柔軟な勤務時間、妊娠・育児中の勤務軽減、代替医師の確保が望まれます。
- その7 より快適な職場になるような工夫をしてくれる病院
清潔な仮眠室や休憩室、軽食がすぐに食べられると元気がわきます。

* 調査結果の詳細は、日本医師会HP (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできます。

＜勤務医の健康を守る病院7ヶ条＞

<http://tomihara.com>に掲載しています。

勤務の健康支援に冠するプロジェクト委員会
この報告書から、市民として開業医としてあるときは行政のすべきことが見えてきます。

＜その1＞医師の休息が、医師のためにも患者のためにも大事と考える病院。必要な睡眠時間や少なくとも週1回の休日が取れる体制が必要です。＜その2＞挨拶や「ありがとう」などと笑顔で声をかけあえる病院。挨拶から始まる良好な人間関係こそが職場の財産です。＜その3＞暴力や不当なクレームを予防したり、組織として対応する病院。事例の多くは組織的対策により予防や早期解決が可能です。＜その4＞医療過誤に組織として対応する病院。医師個人の責任ではなく、組織としての対応が医師・患者に必要です。＜その5＞診

療に専念できるように配慮してくれる病院。業務の効率化・補助者の導入などで負担が減ると、診療の効率が上がります。＜その6＞子育て・介護をしながらの仕事を応援してくれる病院。柔軟な勤務時間、妊娠育児中の勤務の軽減、代替医師の確保が望まれます。＜その7＞より快適な職場になるような工夫をしてくれる病院。清潔な仮眠室や休憩室、軽食がすぐに食べられると元気が出ます。

＜私たち＝医療者・市民・行政のすべきこと＞＜7ヶ条を踏まえて整理をしました＞

1. 限りある医師数の中で、医師会が、今行っている毎日曜日の日直支援を継続し、さらなる病診連携を。市民病院の研修医を確保するための一つとして「西脇まるごと研修制度」を立ち上げます。これまでの病院内研修にとどまらず、開業医との連携、市民や商工会、「守る会」などとの交流も行います。西脇の産業（釣り針・織物）の見学会や、歓迎会・食事会、開業医の在宅訪問診療へも参加していただきましょうか。研修に来られた先生たちや学生さんたちを暖かく迎え入れ、また来ていただけるように、西脇そのものを気にしてもらって「町ぐるみでの研修制度」です。新しいHP、マスコミなどで呼びかけましょう。
2. まさに「守る会」のお母さんたちが行っている運動です。医師に感謝の念を持ち、大切にするという意志を明らかにしましょう。「西脇小児医療を守る会」だけでなく、各科に「守る会」を作っていくませんか!? 先生方もきっとやる気倍増と思います。
3. 4. 病院が医師個人を守らないために、多くの医師が病院を去っていく事態が現実になっています。行政・病院が守ってくれるからこそ、救急患者などを積極的に受け入れることが出来るのです。市民病院が何をしてくれるかではなく、厳しい環境の元で献身的

に地域の安全を守っていただいている市民病院に何が出来るかを考える時代です。

5. 医師が本来の診療に専念するためには、業務の効率化などが重要になります。「書類書き」に追まわられていたのでは、診療活動に専念できません。医師数の増加はすぐには見込めませんから、看護師や医療補助者などの増員が必要です。

6. 女性医師が増加の一途です。医学部入学時には、今女性が4割を占めています。女性には妊娠・子育ても大切な仕事の一つです。病院内で女性医師が働きやすい環境作りが問われる時代です。時代遅れでは、「いい病院」とは言えませんね。

7. 快適な職場には、様々な要素がありますが、心休まる環境が大事です。清潔な仮眠・当直室。お掃除ボランティアはどうでしょう。花壇作る市民・学生・シルバーのボランティア、診察室に花を飾るのは・・・。柏原病院や柏原日赤で実施をされていて好評なのは差し入れです。市民フォーラムに参加いただいた方たちに呼びかけて「差し入れボランティア」を組織しましょう。当直時に、ちょっと小腹が空いたときに良いのではないのでしょうか?!多くの市民が何かをしたいと考えています。先生方の「似顔絵」を書いてもらいましょう。市民広報や名札などに絵を描きませんか!?

今一度、確認しましょう。「地域医療を守ることは、地域を守ること!!」

西脇で展開されている市民運動は、全国的にも珍しい運動です。9月6日に姫路で行われ



た救急フォーラムで「西脇小児医療を守る会」の村井さんが、医師や看護師に感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」運動や市内の保育園、子育て学習センターで展開するコンビニ受診抑制＝適正受診のための勉強会などを紹介。「西脇病院の勤務医の過酷な実態を知り、少しでも医師の負担を減らしたいと思った」と患者や住民側に呼びかけられました。

小野三木両市民病院の統合が進む中、今こそ様々な病院支援が必要です。さらなるアイデアを募集してます。市民フォーラムでは、多くの団体の方からの意見もありました。各団体の皆さんは、市民と病院をつなぐためには何が出来るのかを再度考えてください。

たとえば薬剤師会は「お薬相談」を検討されています。商店街などに「地域医療を守る」小さな「のぼり」はどうでしょう。車に地域医療を守る「ステッカー」を張りましょう。すべての公用車にステッカーを貼りましょう。「沈黙は金」ではありません。声を大にして意志を示すことが重要です。次回の検討会でさらに、突き詰めて、課題を集約し、病院・行政との検討を行う予定です。思いを実現するために病院内に「ボランティア受け入れセンター」を設立したいですね。同時に、西脇病院のモチベーションアップ委員会・地域連携室などと地域医療検討会の連携を推進し、様々な支援策の具体的検討・実践のための取り組みを行っていきたくて考えています。

「検討会」は10月14日(水曜)7時半から西脇区会館で。毎月第2水曜日。
お尋ねは、西脇市多可郡医師会 <Tel 0795-23-3402>
メール会員の登録は : tomihara@tomihara.com へ。 情報発信してます。